

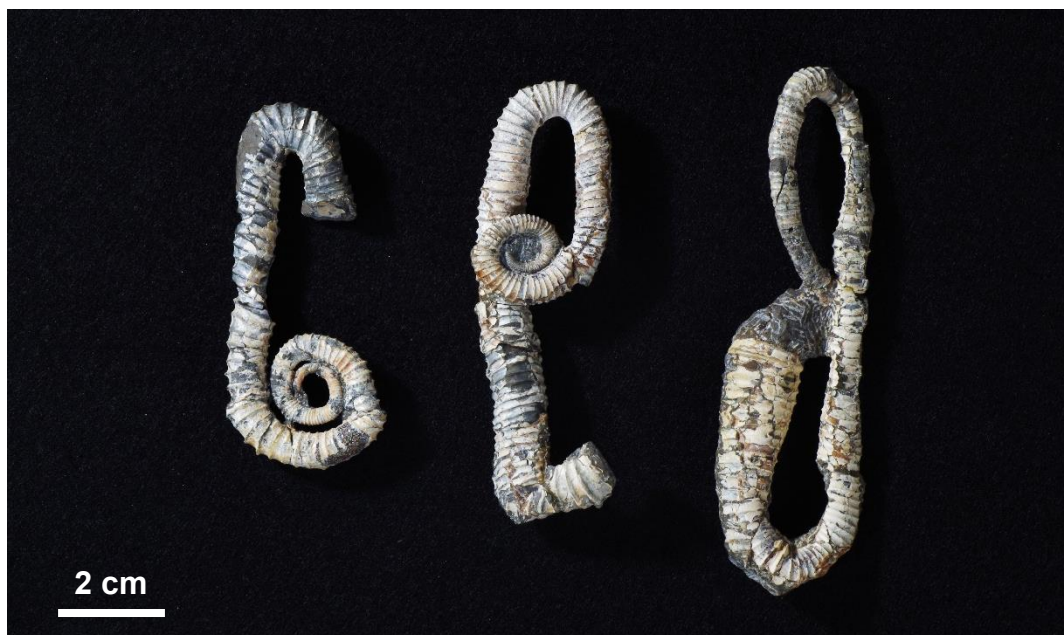


北海道中川町から，新属新種のアモンナイト化石を発見！

—若手研究者が採取した化石は 37 年ぶりの新発見—

概要：

公益財団法人深田地質研究所の^{むらみやゆうすけ}村宮悠介研究員と，国立科学博物館の^{しげたやすなり}重田康成博士（環境変動史研究グループ長）は，北海道中川郡中川町の白亜紀後期（約 9000 万年前）の地層から，ディプロモセラス科に属する新属新種のアモンナイト化石を発見しました。このアモンナイトは，形状と発見地の地名から「天塩のゼンマイ石」を意味する，“*Sormaites teshioensis*”（ソルマイテス・テシオエンシス）と命名されました。北海道から本科の新属が発見されるのは，1984 年以来 37 年ぶりです。今回の発見により，白亜紀後期の北海道周辺（太平洋北西部）に生息していたアモンナイトの多様性と進化の過程がより詳しく明らかになりました。この研究成果は，2021 年 1 月 1 日付けの日本古生物学会の英文誌“Paleontological Research”（パレオントロジカル・リサーチ）に掲載されます。



新属新種のアモンナイト *Sormaites teshioensis*



北海道の中川町周辺には、白亜紀の海で形成された地層（^{えぞそうぐん}蝦夷層群）が広く分布しています。蝦夷層群からは保存状態が良いアンモナイト化石が多く見つかることから、世界的に著名なアンモナイト研究のフィールドになっています。深田地質研究所の村宮研究員は、2015年（当時名古屋大学理学部学生）に、白亜紀チューロニアン期後期（約9000万年前）の地層（^{えぞそうぐん}蝦夷層群 ^{まくそう}佐久層）が分布している中川町内の小川で、1個のアンモナイト化石を採取しました。このアンモナイトはこれまでに知られていない形状をしており、学術的に貴重だと考えられたため、2018年から、アンモナイトの専門家である国立科学博物館の重田康成博士と本格的に研究を開始しました。その後中川町で行った追加調査で、新たに2個、2015年に採取されたものと同様のアンモナイト化石を採取しました。

今回見つかったアンモナイトは、成長初期は蚊取り線香状に巻き、成長の中期以降は直線部とU字部を繰り返してクリップ状に巻くという特徴があります。この研究では、発見した3個体のアンモナイトについて、殻の巻き方と殻表面の模様（^{ろく}肋）の特徴を、これまでに知られているアンモナイトの特徴と詳細に比較検討しました。その結果、今回発見した3個体のアンモナイトは、全体的な巻き方の特徴は異常巻きアンモナイトのグループであるディプロモセラス科に属するアンモナイトと類似する一方で、成長初期の巻き方と肋の特徴は、これまでに知られているどのアンモナイトとも明確に異なっていることが分かりました。このことから、今回発見した3個体のアンモナイトはディプロモセラス科に属する新属新種だと判断されました。

本研究結果をまとめた論文は、日本古生物学会発行の英文誌、“Paleontological Research”（パレオントロジカル・リサーチ）に1月1日付けで掲載されます。この研究では、今回発見したアンモナイトを、“*Sormaites teshioensis*”（ソルマイテス・テシオエンシス）と命名しました。この学名は「天塩のゼンマイ石」の意味で、形状が植物のゼンマイに似ていることからアイヌ語でゼ



2021/01/01
公益財団法人深田地質研究所

ソルマイを意味する“^{ソルマ}Sorma”と、中川町周辺の旧地名である「天塩」にちなんでいます。この論文が発行されることで、本研究で命名した *Sormaites teshioensis* という学名は、国際的に認められることになります。

ディプロモセラス科のアンモナイトは、北海道の蝦夷層群から豊富に見つかりますが、その進化の過程（系統関係）は詳しくは分かっていませんでした。今回発見された新属新種のアンモナイトが生息していた白亜紀チューロニアン期後期（約 9000 万年前）は、ディプロモセラス科のアンモナイトが急速に多様化した時期として知られています。今回、37 年ぶりにディプロモセラス科に属する新属新種が発見されたことは、ディプロモセラス科のアンモナイトの多様性と系統関係を知る重要な手がかりとなりました。

本研究で用いられた新属新種のアンモナイト化石の実物標本は国立科学博物館に収蔵されていますが、2021 年 1 月 18 日（月）から 2021 年 9 月 30 日（木）までの期間は、中川町エコミュージアムセンター（〒098-2626 北海道中川郡中川町字安川 28-9）で展示予定です。

論文タイトル：*Sormaites*, a new heteromorph ammonoid genus from the Turonian (Upper Cretaceous) of Hokkaido, Japan

著者：村宮悠介（公益財団法人深田地質研究所・研究員）、重田康成（国立科学博物館・環境変動史研究グループ長）

掲載雑誌：Paleontological Research（日本古生物学会発行の英文誌）

掲載誌の発行日：2021 年 1 月 1 日